



# コーちゃん・オーちゃんの 「見つけた！豊岡元気人」



3部作の一つ「だんじり祭り」を制作



城崎文芸館で開催中の「きのさき五人展」



3部作が飾られた千年の湯権左衛門の食堂

## 城崎の魅力を持ち絵に込め

### 作品を通して城崎の魅力を発信!!

さまざまな顔を持つ城崎の魅力を切り絵で表現し、観光客に「また来たい」との思いを演出する元気な男性を紹介します。

伊賀二郎さん(69歳)城崎町湯島

「切り絵を始めると、何時間でも、何日でも、人と話すことなくやり続けることができます」と話すのは、切り絵作家の伊賀二郎さん。

「切り絵を始めて、何時間でも、何日でも、人と話すことなくやり続けることができます」と話すのは、切り絵作家の伊賀二郎さん。

「切り絵を始めて、何時間でも、何日でも、人と話すことなくやり続けることができます」と話すのは、切り絵作家の伊賀二郎さん。

伊賀さんは、大学卒業後、愛知県で自動車の設計をしていましたが、平成7年に帰省。旅館業を継ぎました。

伊賀さんは、大学卒業後、愛知県で自動車の設計をしていましたが、平成7年に帰省。旅館業を継ぎました。

伊賀さんは、大学卒業後、愛知県で自動車の設計をしていましたが、平成7年に帰省。旅館業を継ぎました。

伊賀さんの運命を変えたのは、平成9年、「切り絵但馬百景」取材中の切り絵画家・久保修さん(東京都)との出会いでした。「久保さんの作品に衝撃を受けました」と語る伊賀さんは、切り絵の魅力にはまり、独学で切り絵を始めました。知れば知るほど奥の深い切り絵。平成15年には、市内在住の切り絵作家・坂田陽一さんの切り絵教室で本格的に切り絵を習いました。

伊賀さんの運命を変えたのは、平成9年、「切り絵但馬百景」取材中の切り絵画家・久保修さん(東京都)との出会いでした。「久保さんの作品に衝撃を受けました」と語る伊賀さんは、切り絵の魅力にはまり、独学で切り絵を始めました。知れば知るほど奥の深い切り絵。平成15年には、市内在住の切り絵作家・坂田陽一さんの切り絵教室で本格的に切り絵を習いました。

伊賀さんの運命を変えたのは、平成9年、「切り絵但馬百景」取材中の切り絵画家・久保修さん(東京都)との出会いでした。「久保さんの作品に衝撃を受けました」と語る伊賀さんは、切り絵の魅力にはまり、独学で切り絵を始めました。知れば知るほど奥の深い切り絵。平成15年には、市内在住の切り絵作家・坂田陽一さんの切り絵教室で本格的に切り絵を習いました。

宿泊客がチェックアウトした後の約3時間が作品作りの時間。伊賀さんは休む間もなく作品作りに没頭しました。伊賀さんの初期の作品は全て、空にコウノトリが飛んでいます。「放鳥されたら、城崎にも飛んできてほしいという願いを込めて切りました」と

宿泊客がチェックアウトした後の約3時間が作品作りの時間。伊賀さんは休む間もなく作品作りに没頭しました。伊賀さんの初期の作品は全て、空にコウノトリが飛んでいます。「放鳥されたら、城崎にも飛んできてほしいという願いを込めて切りました」と

宿泊客がチェックアウトした後の約3時間が作品作りの時間。伊賀さんは休む間もなく作品作りに没頭しました。伊賀さんの初期の作品は全て、空にコウノトリが飛んでいます。「放鳥されたら、城崎にも飛んできてほしいという願いを込めて切りました」と

伊賀さんの初期の作品は全て、空にコウノトリが飛んでいます。「放鳥されたら、城崎にも飛んできてほしいという願いを込めて切りました」と

### 大作に挑む

旅館業の合間に切り絵……と忙しかった伊賀さんも、平成23年6月に旅館業を廃業。切り絵一本になりました。

そんな伊賀さんの元に昨年の3月、大作の依頼が舞い込めます。改装中の旅館「千年の湯権左衛門」の宿泊者用の食堂に飾る3部作の依頼です。縦80センチ、横160センチもの切り絵は初めての経験。1点に約3カ月を費やしました。7月に、城崎の秋祭りを描いた「だんじり祭り」を納品。10月には、桜咲く春を描いた「木屋町の桜」、12月には、柳が揺れる夏を描いた「一の湯」を納品して3部作完成。宿泊客らの目を楽させています。「城崎の魅力が少しでも伝わればうれしいですね」と目を細めます。

そんな伊賀さんの元に昨年の3月、大作の依頼が舞い込めます。改装中の旅館「千年の湯権左衛門」の宿泊者用の食堂に飾る3部作の依頼です。縦80センチ、横160センチもの切り絵は初めての経験。1点に約3カ月を費やしました。7月に、城崎の秋祭りを描いた「だんじり祭り」を納品。10月には、桜咲く春を描いた「木屋町の桜」、12月には、柳が揺れる夏を描いた「一の湯」を納品して3部作完成。宿泊客らの目を楽させています。「城崎の魅力が少しでも伝わればうれしいですね」と目を細めます。

そんな伊賀さんの元に昨年の3月、大作の依頼が舞い込めます。改装中の旅館「千年の湯権左衛門」の宿泊者用の食堂に飾る3部作の依頼です。縦80センチ、横160センチもの切り絵は初めての経験。1点に約3カ月を費やしました。7月に、城崎の秋祭りを描いた「だんじり祭り」を納品。10月には、桜咲く春を描いた「木屋町の桜」、12月には、柳が揺れる夏を描いた「一の湯」を納品して3部作完成。宿泊客らの目を楽させています。「城崎の魅力が少しでも伝わればうれしいですね」と目を細めます。

そんな伊賀さんの元に昨年の3月、大作の依頼が舞い込めます。改装中の旅館「千年の湯権左衛門」の宿泊者用の食堂に飾る3部作の依頼です。縦80センチ、横160センチもの切り絵は初めての経験。1点に約3カ月を費やしました。7月に、城崎の秋祭りを描いた「だんじり祭り」を納品。10月には、桜咲く春を描いた「木屋町の桜」、12月には、柳が揺れる夏を描いた「一の湯」を納品して3部作完成。宿泊客らの目を楽させています。「城崎の魅力が少しでも伝わればうれしいですね」と目を細めます。

そんな伊賀さんの元に昨年の3月、大作の依頼が舞い込めます。改装中の旅館「千年の湯権左衛門」の宿泊者用の食堂に飾る3部作の依頼です。縦80センチ、横160センチもの切り絵は初めての経験。1点に約3カ月を費やしました。7月に、城崎の秋祭りを描いた「だんじり祭り」を納品。10月には、桜咲く春を描いた「木屋町の桜」、12月には、柳が揺れる夏を描いた「一の湯」を納品して3部作完成。宿泊客らの目を楽させています。「城崎の魅力が少しでも伝わればうれしいですね」と目を細めます。

そんな伊賀さんの元に昨年の3月、大作の依頼が舞い込めます。改装中の旅館「千年の湯権左衛門」の宿泊者用の食堂に飾る3部作の依頼です。縦80センチ、横160センチもの切り絵は初めての経験。1点に約3カ月を費やしました。7月に、城崎の秋祭りを描いた「だんじり祭り」を納品。10月には、桜咲く春を描いた「木屋町の桜」、12月には、柳が揺れる夏を描いた「一の湯」を納品して3部作完成。宿泊客らの目を楽させています。「城崎の魅力が少しでも伝わればうれしいですね」と目を細めます。

そんな伊賀さんの元に昨年の3月、大作の依頼が舞い込めます。改装中の旅館「千年の湯権左衛門」の宿泊者用の食堂に飾る3部作の依頼です。縦80センチ、横160センチもの切り絵は初めての経験。1点に約3カ月を費やしました。7月に、城崎の秋祭りを描いた「だんじり祭り」を納品。10月には、桜咲く春を描いた「木屋町の桜」、12月には、柳が揺れる夏を描いた「一の湯」を納品して3部作完成。宿泊客らの目を楽させています。「城崎の魅力が少しでも伝わればうれしいですね」と目を細めます。

# 学校探検

中学校編 11

## 近畿大学附属豊岡中学校(豊岡)

案内者 尾崎 祐くん(3年2組)、  
村尾奈々星さん(3年1組)、  
長砂太賀くん(3年2組)(左から)



近畿大学附属豊岡中学校は在校生193人で、校訓に「人に愛される人 人に信頼される人 人に尊敬される人になる」を掲げています。

同校に通う前生徒会長の尾崎くんは剣道部、前副会長の村尾さんは琴部、前書記の長砂くんは英会話部に所属していました。



部活動で楽しかったことを聞くと、尾崎くんは「試合で勝ち進められたこと」、村尾さんは「先輩たちからいろいろなることを教えてもらったこと」、長砂くんは「A.L.Tの先生と英語で会話をし、通じ合えたこと」と話します。

今回は、3人に近畿大学附属豊岡中学校を紹介してもらいました。

特徴ある取組みとして、「国際交流」を行っています。「ニュージージーランド語学研修」では、ニュージージーランドに10日間ホームステイをし、現地の学校に通います。学校以外の活動では、ホームステイの家庭ごとで体験することも異なり、楽しかったです。

「オックスブリッジ イン グリッッシュ サマーキャンプ」では、毎年夏休みにオックスフォード・ケンブリッジ大学の学生を迎えて、約1週間、学校と神鍋のホテルで、英語に親しみながら学習します。英語だけでなく、他国の文化を



学ぶことで、異なる考え方やものの見方を知り、日本の文化を再認識する機会となります。

「学習合宿」は、年に2〜3回、神鍋のホテルに泊り込み、学習します。友達と一緒に切磋琢磨しながら学習できる良い機会です。

近梅祭(文化祭)では、来校していただいた方に「コウノトリ募金」への協力を呼び掛け、集まったお金を市に寄付しました。「ランドセルチャリティー」では、自分たちが使っていたランドセルを集め、アフガニスタンなどの国に送っています。

また、「大学見学」では、実際に大学や研究の様子を見に行けるので、良い刺激になります。進学意欲を高め、大学のことをいろいろ調べるきっかけになりました。

この中学校には市外から来る生徒も多く、いろいろな考え方を知り、お互いを高め合うことができます。

先輩たちには、当たり前前のことが当たり前前にでき、良い行動、取組みは見習い、継続して行ってほしいです。

# 笑顔の輪

## いにしえの世界に浸り、温故知新 気ままに楽しむ古典の会(豊岡)

気ままに楽しむ古典の会のルーツは、さまざまなことを学ぶ豊岡公民館の学舎講座です。同講座生の中から、古典を専門に学びたいという声が出て、現会長の山本晃司さんが発起人となりました。



▲分かりやすく、楽しい古典教室

ともあり、昨年は平清盛、現在には八重の桜が教材です。17年もの長い間続いている理由を尋ねると、山本会長は「古典という名前にとらわれない、楽しいお話を聞く会であり、おしゃべりの会です」と話します。

講師の森田充代さんの希望「条件をつけないでほまに指導させてほしい」ということから、会の名前は「気ままに楽しむ古典の会」に決まりました。

平成8年5月に13人でスタートし、現在の会員は38人です。

最初は広く浅くから入っていき、これまで、伊勢物語や雨月物語、徒然草などさまざまな古典の話を聞きました。

また、源氏物語や枕草子をはじめ、つくり1年かけて学ぶこともあり、近年は、NHKの大河ドラマが題材になるこ

は納涼、秋は紅葉狩り、冬は正月行事などを催す中で古典を学びます。出石永楽館歌舞伎も予習して観劇すると楽しさ倍増です。

森田講師の「テストはないから気楽に聞いて」の声の下、今日も、笑い声が響く古典教室が始まりました。